

大阪薬科 大学報

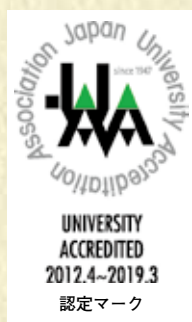
73

OSAKA UNIVERSITY OF PHARMACEUTICAL SCIENCES



C O N T E N T S

理事長挨拶	学校法人大阪医科薬科大学の誕生	理事長 植木 實…… 3
副理事長挨拶	学校法人大阪医科薬科大学のスタート	副理事長 浜岡 純治…… 3
特集 学長対談	最高の出会い、最強のチーム。	大阪医科大学 学長 大槻 勝紀…… 4 大阪薬科大学 学長 政田 幹夫
祝辞	学校法人「大阪医科薬科大学」発足にともなう祝辞	高槻市長 濱田 剛史…… 6
新入生へのメッセージ		大阪薬科大学 学長 政田 幹夫…… 6
研究振興基金助成	平成27年度研究振興基金助成対象研究論文の概要	製剤設計学研究室 講師 門田 和紀…… 7 医薬品化学研究室 助手 菊地 崇…… 7
病院・薬局実務実習	平成27年度病院・薬局実務実習を終えて	臨床教育・研究支援課…… 8
薬剤師国家試験	薬剤師国家試験に向けて早めの意識付けを！	薬剤師国家試験対策委員長 教授 岩永 一範…… 9
就任の挨拶		基礎薬学教育研究センター 教授 尾崎 恵一……10 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任……10 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 敏明……10 臨床薬学教育研究センター 准教授 角山 香織……10 臨床薬学教育研究センター 准教授 細畑 圭子……11 臨床薬学教育研究センター 講師 内田まやこ……11 臨床実践薬学研究室 助手 庄司 雅紀……11 学生課 塩谷 京子……11 入試課 渥美百合子……11 施設課 栗原 一生……11 金森 徹……11
総合科学系の紹介	自然学グループ	准教授 永田 誠……12
進路・就職状況	平成27年度学部卒業生の進路・就職状況	キャリアサポート部長 教授 福永理己郎……12
平成27年度決算	平成27年度学校法人大阪薬科大学決算	……13
三大学医工薬連環科学教育研究機構	三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その10）	准教授（特任） 銭田 晃一……16
学生相談室だより	呼吸でこころを整える	学生相談室 相談員 小田 佳子……16
事務局だより	総務課……17 教務課……21 入試課……22 臨床教育・研究支援課……23 学生課……25 キャリアサポート課……27 図書・情報課……27	
薬用植物の紹介	ムラサキ（ムラサキ科）	薬用植物園長 教授 谷口 雅彦……巻末 薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介
編集後記	今後の大学広報のあり方	広報委員長 教授 辻坊 裕……巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011（平成23）年度認証評価の結果、2012（平成24）年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012（平成24）年4月1日より
2019（平成31）年3月31日



平成28年度新入生歓迎会（五月祭）



学校法人大阪医科薬科大学の誕生

－ 教育の高質化と永続のために －

学校法人大阪医科薬科大学

理事長 植木 實

新学校法人の理事長を務めます植木です。大阪薬科大学の皆様にご挨拶を申し上げますとともに、今後のご指導をよろしくお願い致します。

学校法人大阪医科薬科大学は、平成28年4月1日に大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併により、大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校を有する医療系総合大学・中等学園として誕生しました。この法人合併の成就には約9年の歳月を要しましたが、両学校法人の関係各位をはじめ多くの方々のご努力とご理解のおかげによるものと心より感謝申し上げます。

本学校法人は、寄附行為第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。」と掲げており、人間性豊かな良質の医療人及び次世代のグローバル人材の育成を使命としています。

学校法人の設置の目的は大きく3つあり、公共性、自主性及び継続性であります。特に法人の継続による安定した高質

な教育は極めて重要であり、それも永遠のものでなければなりません。

この度の法人合併は教育・研究・医療領域のさらなる発展に加え、経営基盤の拡大・安定と運営の効率化が期待されますが、これらは両大学及び中等学園がこれまでの実績を踏まえ、それぞれの自主性・特色を活かし補完・協力することで達成され、より一層の成長が図られると考えます。上述のように、事業主体である本学校法人は永続による安定した高質化した教育を実践するために、これからも確固たるガバナンスのもとに法人基盤の一層の安定化を図ってまいります。同時に、教職員、学生・生徒の皆様にはSSD、即ちStaff (Student) Self-Development (自己研鑽・自己啓発) の実践をお願いしておりますが、皆様一人ひとりの努力の積み重ねによる能力向上が、両大学・中等学園及び病院群の骨太化につながると信じています。

本学校法人は、これからも社会情勢の変化を見据えながら、医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築と学際的教育・研究及びチーム医療教育を推進し、一方では探究心を育む高度な中等教育を行うなど魅力ある学校作りを行って、教育、研究並びに医療を中心とするCenter of Communityとして、また特色ある最優の医療系総合大学・中等学園への発展を目標として邁進してまいります。

今後とも、濱岡副理事長と一致協力しながら両大学の交流と融和を進め、次の目標である大学統合に向けてさらに努力してまいりますので、皆様におかれましては一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



学校法人大阪医科薬科大学のスタート

学校法人大阪医科薬科大学

副理事長 浜岡 純治

学校法人大阪薬科大学は、平成28年4月1日に学校法人大阪医科大学と法人合併し、「学校法人大阪医科薬科大学」として新たなスタートを切りました。私は、この3月まで学校法人大阪薬科大学の理事長を2年7か月務めてきましたが、今回の法人合併により、副理事長に就任いたしました。引き続き、大阪薬科大学の経営を主として担当してまいります。

法人合併については、平成22年の秋頃から合併担当理事として協議に関わってきましたので、5年半もの年月が経過して法人合併が実現したことになり、本当に感慨深いものがあります。

合併協議を振り返ってみると、お互いが譲り合いの気持ちを持つとともに、将来のあるべき姿をイメージし、それを実現させたいとの想いで協議を進めてきたことが、相互の信頼関係の確立につながり、合併の成功をもたらしたように思います。

新たにスタートする学校法人大阪医科薬科大学は、大阪薬科大学、大阪医科大学、高槻中学校・高等学校を傘下に持ち、

医学、薬学、看護学の連携による特色のある大学作りをすることを目的とし、医薬看の連携によるチーム医療を見据えた総合医療教育の実現を目指してまいります。そして、法人合併の次には、大阪薬科大学と大阪医科大学との統合が、大きな課題となります。しかし、これについては、お互いの信頼感が醸成されてきた段階で実施することとしています。

今後は、新法人成立によるメリットをいかに早期に出していくかが重要になってきます。教育研究面での具体的な取り組みの検討、新しい人事制度の検討、勘定系システムの統合など取り組むべき課題は山ほどあります。これらの課題を新しい理事会で迅速に意思決定していくことが何より必要になりますが、そこでも医大、薬大それぞれの利益代表の立場で主張をするのではなく、法人全体としてどうあるべきか、そのために今何をしなければならないかとの観点で議論することが不可欠であります。この時に合併交渉の中で培われてきた相互信頼関係が生きてくるものと確信しています。

法人合併は手段であって、目的ではありません。我々はようやくスタート地点に立ったとの想いで、新法人の課題解決や合併目的の実現に向けて確実に取り組んでいくことが何よりも重要です。そして、可能な限り早期に相互信頼関係を確立し、大学統合を実現させていきたいと考えています。私は、副理事長として植木理事長をしっかりと支えていき、新法人の持続的な発展に向けて、全力を傾注していく所存ですので、宜しく願いいたします。



大阪薬科大学
学長 政田 幹夫

大阪医科大学
学長 大槻 勝紀

2016年4月1日からの法人合併をソメイヨシノが満開で祝ってくれました。「医学・看護」「薬学」の理想を追いそれぞれ歴史を積み上げてきた、大阪医科大学と大阪薬科大学。将来の大学統合も視野に、大学相互の交流もスタートします。そこで、大槻勝紀・大阪医科大学学長と政田幹夫・大阪薬科大学学長の「法人合併・学長対談」を大阪医科大学応接室で開き、両大学の進むべき道を大いに語り合ってもらいました。
(対談中の敬称は略しました)

「医薬看」で、より高度なチーム医療推進

期待大、「医薬看」融合

——法人合併がスタートしました。

大槻・大阪医科大学学長の率直な思いを聞かせて下さい。

大槻 大阪医科大学は1927年創設で、西日本の私立医大で最も古い医学部です。本学カリキュラムの特徴の一つとして「医看」融合教育を推進していますが、「医看」の合同講義や実習などを増やすだけでなく、多職種連携を目指したチーム医療に関するカリキュラムを検討していく必要があります。今後「薬」学と一緒にすることで、「医薬看」の視点共有が実現でき、患者中心のチーム医療推進の大きな力となります。

——政田・大阪薬科大学学長の思いはいかがでしょうか。

政田 大阪薬科大学は1904年創設で、ルーツは「薬

の街、大阪・道修町です。昨年110周年を迎えた伝統ある大学で、その卒業生は2万名を超えます。「薬」学を目指す者にとってこの法人合併は、「医・看」の視点を大学から学ぶことができ、「医薬看」の連携教育が行えることになり、大いに期待しています。医療の臨床現場に「薬」をどう加わらせるかが、これまで大きな課題でしたが、その点においては大きな一歩を踏み出したのではないのでしょうか。

改革プラン、着実に

——政田学長は昨年1月、大槻学長は昨年6月に就任されて以来、ともに次々と大学改革計画を提示され、スピード感を持って実行されています。政田学長、4月1日から、大阪薬科大学で臨床薬学教育研究センターがスタートしましたね。

政田 着任以来の大きな構想でした。ここを臨床教育研究の主要拠点にしようと考えています。学内外

改革共有、合併の花咲かす

から公募した教授3名、准教授2名、講師1名の6教員体制で、当初は臨みます。そして、大阪薬科大学と大阪医科大学との架け橋にしたいと、位置づけています。それは、臨床教育を実践していく中で医薬看の連携教育は必須条件であり、法人合併によりその環境が整ったといえると思います。また、臨床現場を体験することにより、はじめて理解する薬学を学ぶ上で、必ず身に付けてもらいたい指標「高度な知識や技術の習得だけではなく、高い生命倫理観を育てる」ことに、資すると期待しています。

——大槻学長は今年1月27日、教職員・学生を集めた第1回の「教育・研究集会」を開かれ、数多くの学長改革プランを分かりやすく発信されました。

大槻 集会のテーマは「世界有数の医療系大学を目指して」です。学長抱負「夢を語る」で、5つの改革方針【今行うべき改革（Innovation）▽教育研究のグローバル化（Globalization）▽社会貢献活動と社会的責任（Social Contribution）▽基礎から臨床への橋渡し（Translation Research）とオンリーワン研究拠点形成▽情報発信と共有化（Open Mind）】を伝えました。5つの方針には、それぞれ目的があり、それを具現化する行動目標（Key Performance Index：KPI）を設定しています。教育・研究戦略会議のメンバーを中心として、担当のKPIについての活動状況や展開などを報告していただきました。私たちの時代の医学知識を100とすれば、今求められる医学の知識量は125～150ぐらいに増加しています。そのため、医学教育研究でInnovationを行う必要があります。現在、医学教育評価機構から求められている「医学教育分野別認証（国際認証）」があります。「国際認証」では臨床実習を現在の46週から70週程度に増やすことが要求されています。また授業時間外での「学修」時間が不足している学生が増えています。そのため、昨年からのPA会のご協力を得て1・2年生全員にiPadを配布し、予習、復習やレポートの提出で学修時間を増やすようにしています。

高知、ベトナム連携

——両法人の合併により、様々な事が加速的に進んでいきますね。

大槻 そうです。これからもスピード感を持って動かすことも大事です。大阪医科大学は高知県内にも医師の派遣をしています。Social Contributionの観点から地域医療に取り組むことは、将来、少子超高齢化時代を迎える高槻において本学が「知（地）の拠点」として重要な意味を持ちます。過日、高知県の尾崎正直知事と会談した結果、夏季休暇時に医薬看の学生を派遣して地域医療を体験することを計画しています。また、Globalizationですが、ベトナム国家大学を訪問して「医薬連携」の合意を得ましたので、政田学長にも今後ご協力を願うつもりです。

刺激で胸高鳴る大学

——本日は、伝統ある両大の学旗を背に、両学長に語り合っていました。向かって右側の大阪医科大学は3色の上部に梅の刺繍、下に大阪医科大学の校名。左側の大阪薬科大学は臙脂色の中央に「薬」の刺繍、下部に大阪薬科大学の校名です。将来、両旗がどのような旗に1本化されるのか、期待が高まりますね。

政田 その通りです。『「医薬看」の合同講義』や実習の実現、そして大槻学長から示された社会貢献活動など、学長同士のやりとりの中で、一層学生が胸を高鳴らせる内容にしていきたいですね。

大槻 学生に常に前向きな刺激を与え、医療に対するモチベーションを高め続けたいですね。そのひとつとして、来年1月にiPS細胞でノーベル賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥教授を招き、学内で講演していただきます。

大阪医科大学 学長 大槻 勝紀

【略歴】大阪医科大学卒業、同大学院医学研究科修了（医学博士）。昭和55年7月同大学助手、同大学講師を経て、昭和63年2月オーストラリア国立大学特別研究員。平成元年4月大阪医科大学助教授、平成3年4月大阪医科大学教授、平成18年1月大講座制により解剖学教室教授へ、平成27年6月から大阪医科大学学長。

大阪薬科大学 学長 政田 幹夫

【略歴】京都大学薬学部卒業、同大学医学部附属病院薬剤部薬剤師（薬学博士）、昭和57年城西大学講師、昭和60年摂南大学助教授、平成元年京都大学胸部疾患研究所附属病院薬剤部長、平成3年福井医科大学医学部附属病院薬剤部長、その後同大学教授・医学部附属病院薬剤部長、統合による役職名変更により福井大学医学部教授・医学部附属病院薬剤部長を経て、平成27年1月から大阪薬科大学学長。

学校法人「大阪医科薬科大学」発足に ともなう祝辞

高槻市長 濱田 剛史



本年4月1日、学校法人大阪薬科大学と学校法人大阪医科大学の伝統ある両法人が、新たに学校法人大阪医科薬科大学としてスタートされたことを、心からお祝い申し上げます。

大阪薬科大学は、明治37年に大阪道修薬学校として創立された後、日本最初の女子薬学専門学校を擁する道修女子薬学専門学校を経て、その後現在の大阪薬科大学として発展されてきました。本市に移転開設された平成8年以降、地域に根ざした大学として、豊かで健康的な社会の実現に多大なるご貢献を賜っております。

大阪医科大学は、昭和2年に日本で最初の5年制医学専門学校である大阪高等医学専門学校として創立された後、常に時代をリードし、医学・看護教育、医療分野における今日の確固たる地位を築かれました。また、附属病院におかれましても、市民に安全で質の高い医療をご提供いただくとともに、本市の地域医療の向上に多大なるご貢献を賜っております。

あわせて、両法人におきましては、これまでも地学連携を通じ、様々な分野で地域社会の発展及び充実に大いに寄与していただき、改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

本市の誇りともいべき両法人のこの度の合併が、今後の更なる飛躍発展の契機となるとともに、医学・薬学・看護学の連携と強い絆のもとで、社会に貢献する人材が今後も数多く高槻の地から羽ばたいていかれることをご期待申し上げます。

本市といたしましても、学校法人大阪医科薬科大学が立地されるまちとしての強みをいかし、更なる高槻の発展を目指してまいりますので、今後とも市政へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、学校法人大阪医科薬科大学のご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

新入生へのメッセージ

大阪薬科大学
学長 政田 幹夫



ご入学おめでとうございます。大学生生活もやっと落ち着いてきたところではないでしょうか。大学生となって、今まで出来なかった様々なことをやってみたいと希望に胸が膨らんでいることでしょう。大いに青春を楽しんでください。昔から「よく学べ、よく遊べ（Work hard, play hard.）（All work and no play makes Jack a dull boy.）」という言葉があるように青春を謳歌してください。

しかし、大学生の一番の仕事？は何といっても勉学です。特に薬学を選んで入学してきた君たちは、卒業時に国の指定した薬剤師国家試験に合格しなければなりません。それ故、他学部に入學した高校時代の友人たちとは少し異なることを認識し、留年することなく着実に進級目標を達成する為に勉学に勤しまなければなりません。古来より、薬剤師は「医薬品に関する高い知識と技術」「人の命に関する高い生命倫理観」を身に付けていなければなりません。更に、患者さんと接する臨床現場においては、正解が無い或いは正解が見つからない事象が数多く見られ、正解でなくとも最も正しい答えを見つけ得るだけの知識と技能を身に付けていなければなりません。そのうえ、医療現場では医師・薬剤師・看護師の協働が必要不可欠であり、多職種の専門家と協調連携（専門職連携；Inter Professional Work）し得る知識・技能・態度を身に付ける、その基礎を6年間のうちに学んでいかなければなりません。

先頃、提出された、高大接続システム改革会議「最終報告」における「学力の3要素」にも、(1)十分な知識・技能、(2)それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力、(3)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、が挙げられています。この3要素は、これからの次世代の高校生にとっては、大学に入学するまでに身に付けておかねばならない事とされていますが、君たちはこれから卒業までの6年間で熟成して、社会に飛び立っていかなければなりません。我々教職員と一体となって頑張っていきましょう。大阪薬科大学の伝統を守り、更に発展させるためにも、また新しい学校法人大阪医科薬科大学としての伝統を築いていくためにも。

平成27年度研究振興基金助成対象研究論文の概要

大阪薬科大学研究振興基金(平成25年6月7日施行)の平成27年度助成対象者が下記のとおり決定しました。この助成は、本学若手専任教員(助手以上で教授を除く50歳未満の者)が本学で行った研究成果の中で、特に優れた研究論文を発表した教員を顕彰し、更なる研究活動の発展を支援することを目的としています。

製剤設計学研究室 講師 門田 和紀

吸入粉末製剤(Dry powder Inhalers; DPI)は、ネブライザーなどに比べ、低コストでの開発が可能で、携帯性に優れている。DPI製剤についてはキャリア法が一般的によく利用されているが、キャリアの含量が多いことにより均一性にばらつきが生じやすいことが問題となっている。そのため、キャリア法に代わる方法としてコンポジット粒子や新たな基剤を用いた方法が期待されている。

本論文では、高度分岐環状デキストリン(Highly branched cyclic dextrin: HBCD)を吸入粉末剤のマトリックス基剤として開発することを目指した。HBCDは分子量が約40万で水中での粒子径は20～30nmの構造であることが推測されている。また、親水性であるグルコースが約900個連結したクラスター構造を形成しており、末端はらせん様構造であることから低分子の薬物と何らかの相互作用する可能性も示唆されている。そこで、HBCDと薬物の相互作用およびHBCDと薬物の粒子生成について蛍光物質として利用されている1-ナフトエ酸を用いて検討を行った。さらに、抗結核薬のリファンピシンをモデル薬物として用いることで吸入特性の評価を行った。

1-ナフトエ酸のHBCDとの蛍光スペクトル測定を行った結

果、調製条件の違いによって、HBCD中での1-NPAの存在状態が異なり、溶液状態で調製することにより薬物はHBCD内において分子状態で分散している可能性が示唆された。また、リファンピシンをDPI製剤として開発するために、微粒子を作製し、吸入特性を評価した。図1に示すように、作製したDPI製剤はポーラスな粒子形態を有しており、結果として従来のキャリア法に比べて、HBCDを基剤として用いることにより顕著な吸入特性の向上が認められた。

以上のことより、HBCDによる吸入粉末製剤のマトリックス基剤としての有用性が示唆された。

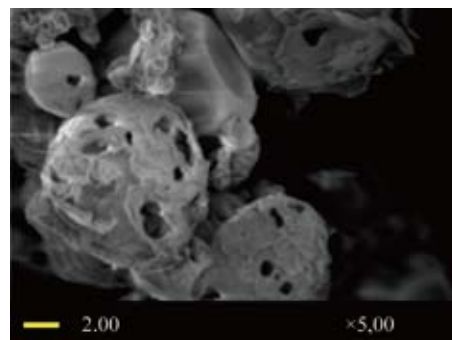


図1
HBCDの
リファン
ピシンと
DPI製剤

医薬品化学研究室 助手 菊地 崇

エリンギ(*Pleurotus eryngii*)はヒラタケ科ヒラタケ属の食用キノコである。アミノ酸、ビタミン、食物繊維等を含む食品として親しまれているが、エリンギ成分およびその生物活性に関する研究は、限られたものであった。従って我々は、それらをさらに明らかにするために、詳細なエリンギ成分の探索研究を行った。

エリンギ子実体メタノールエキスの酢酸エチル可溶部について分離・精製し、新規ステロイド(1)および既知ステロイド(2)を単離した(図1)。

化合物1は高分解能EIMSから分子式を $C_{28}H_{42}O_5$ 、不飽和度を8と決定した。 1H および ^{13}C -NMRスペクトルは、2個の三級methyl基、4個の二級methyl基、2個のoxymethine基、3個の四級oxycarbon、1個の二置換olefinおよび1個の四置換olefinのシグナルを示し、本品は六環性構造であることが明らかとなった。また ^{13}C -NMRスペクトルのシグナルから、3個のacetal carbonの存在が示唆された。さらに二次元NMRスペクトル解析およびX線結晶解析(図2)により、本品の構造を図1に示したように決定し、eringiacetal Aと命名した。本品は、これまでに例を見ないB環にかご型構造を有するステロイドである。

化合物1および2について、マクロファージ活性化阻害能評価のため、LPS刺激したマウスマクロファージを用いて一

酸化窒素(NO)産生抑制試験を行った。化合物1は、多少の細胞毒性は認められたが、NO産生抑制活性を示した(IC_{50} 19.9 μ M)。化合物2は、NO産生抑制活性および細胞毒性は共に認められなかった。

以上、本研究でエリンギ子実体成分eringiacetal Aの構造およびそのNO産生抑制活性を明らかにした。エリンギには、このほかにもユニークな構造を有する成分の存在が期待でき、その生物活性も興味深い。

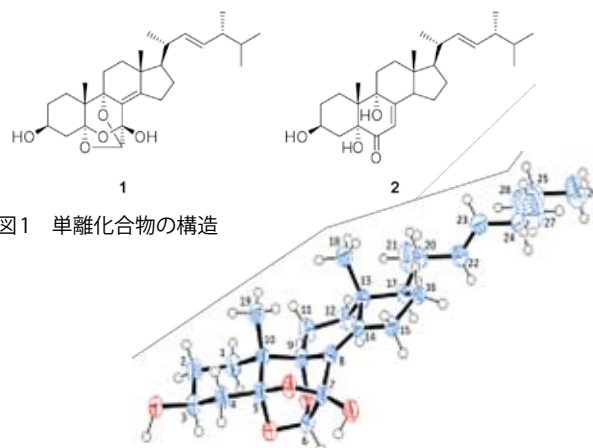


図1 単離化合物の構造

図2 eringiacetal A(1)のORTEP図

平成27年度病院・薬局実務実習を終えて

臨床教育・研究支援課

本学の臨床薬学教育カリキュラムにおいて、4年次に共用試験（CBT・OSCE）を受験し、試験に合格すると医療現場である病院・薬局における実務実習が可能となります。実務実習は3期にわかれていますが（近畿地区の病院は一部4期制を採用しているところがあります）。この実施時期の中で、病院と薬局の実務実習がそれぞれ11週間行われます。

実務実習の配属先および実施時期は、例年5月頃に「実務実習先調整のためのアンケート調査」を行い、事前に学生からの要望等を受け付けています。アンケートは、自宅の住所や希望する実習先および「ふるさと実習」を希望するか等を確認します。このアンケート内容を考慮し、配属先を決定していきますが、最終的な配属先は、近畿地区の他大学薬学部 of 担当者や病院薬剤師会、薬剤師会等から構成される近畿地区調整機構での会議において決定します。アンケートの内容は最大限考慮していますが、近畿地区の他大学薬学部との調整や受入先定員の兼ね合いもあり、要望に沿えない場合がありますので、予めご了承ください。

また、近畿地区以外の地域での「ふるさと実習」も実施しています。平成27年度は北陸、東海、中国・四国、九州地区の調整機構を経由して、福井県・静岡県・三重県・鳥取県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・宮崎県でふるさと実務実習が実施されました。故郷での実習で、実習生の意欲もあり、実習施設での評価も高く、順調に終了しました。

ただ、「ふるさと実習」の場合、各地区の調整機構に調整を委ねることになります。そのため、調整の結果、受け入れ不可能となるケースがありますので、理解しておいてください。

実務実習では、実習が円滑に行われるよう担当教員が実習施設を訪問して指導薬剤師と実習生に面談する機会を設け

ています。平成27年度は、原則実習期間中に2回訪問して、実務実習が滞りなく行われるよう支援体制を整えました。また、ほとんどの施設ではWebを利用した実習記録システム（富士ゼロックスシステム）が採用されています。

このシステムは、実務実習の日誌や自己目標の設定、指導薬剤師や特任教員との連絡ツールとして利用することができますので、実習時の様々な問題も気軽に相談してください。

実務実習は、病院・薬局それぞれ11週間の長期間にわたり、医療機関で実習するため、精神的にも肉体的にも負担が大きいのと思われます。体調管理の徹底や医療機関で働く上での高い倫理観を持って臨むことが大切です。

実務実習終了後は報告書の提出と実習に関するアンケートを実施しますので、協力をお願いします。最後に「実務実習に関する学生の声」を列挙しますので、参考にしてください。

学 生 の 声

（病院）

- *多くの回診に同行することができ、薬剤師の役割がみえた。
- *勉強会において、臨床的な話が聞けて興味深かった。
- *放射線科や栄養科など他の科を見学することができ勉強になった。

（薬局）

- *服薬指導の対応で自信が持てなかったことや、鑑査を十分に行えなかったのも、薬剤の知識や病態の知識について圧倒的に不足していたと感じた。
- *実際の調剤や服薬指導は型にはまった状況はなかった。業務の流れや服薬指導の流れだけでなく、どういったことに注意して取り組まなければならないかを知っておくべきだった。
- *圧倒的な医薬品量で、それぞれの効能等は分からないものが大半だった。事前に予習しておくべきだと感じた。



白衣授与式



実務実習伝達・報告会

平成27年度実務実習（病院・薬局）実施状況

	4期制Ⅰ期	4期制Ⅱ期	4期制Ⅲ期	4期制Ⅳ期	3期制Ⅰ期	3期制Ⅱ期	3期制Ⅲ期	計
	4/13(月) ～7/5(日)	7/6(月) ～9/27(日)	9/28(月) ～12/13(日)	1/7(木) ～3/23(水)	5/11(月) ～7/26(日)	9/7(月) ～11/22(日)	1/7(木) ～3/23(水)	
病 院	46	6	41	17	58	97	31	296
薬 局	—	—	—	—	105	150	41	296
計	46	6	41	17	163	247	72	592

薬剤師国家試験に向けて早めの意識付けを！

薬剤師国家試験対策委員長 教授 岩永 一範

皆さん御存知のように、薬剤師国家試験の受験資格は基本的に薬学部薬学科卒業者のみに与えられ、例年2月末から3月初めに行われる国家試験に全国で約8000～9000名の新卒者が挑戦します。先日（2月27、28日）行われた第101回薬剤師国家試験の本学卒業生の結果を表に示しました。既卒者等を合わせた総合合格率こそ全国平均を11.0ポイント上回っているものの、新卒者合格率に限れば、僅か3.9ポイントに過ぎず、全国順位は総合で私立56大学中16位、新卒では28位に甘んじています。薬学部が6年制に変更となった第97回国家試験以降の本学新卒者の私立大学中全国順位は、14位→15位→9位→24位→28位と下降傾向を示しており、第102回では必ず回復しておかないと、ずるずるとこのまま低迷してしまいます。もう一点、気になる傾向として、以前は新卒者の合格率は男女ほぼ同程度か、女子が優位であったのが、第98回に逆転して以来4回連続して女子より男子の合格率が勝っています。女子学生の皆さんの奮起が強く望まれます。

国家試験合格に向けての実力をつけるため、6年次配当の科目である薬学総合演習において、1～5年次に学習した内容について再確認しますが、その内容量は極めて膨大であるため6年次になってからの学習時間では到底足りません。したがって、下位年次においてコツコツと勉強し、実力のある程度積み上げておかないと「卒業に至らない」、あるいは「卒業はできたものの、国家試験合格にはもう一步届かない」といった事態に陥ります。目安として4年次に行われるCBTと呼ばれる共用試験に向けての学習で苦勞している学生は、国家試験勉強でも相当苦勞することを覚悟して下さい。6年次においては、特別研究や就職活動等があり、国家試験に向けての勉強に割り当てられる時間が制約されるため、限られた時間を効率的に使用し、実力アップに結び付ける勉強をすることが出来るか否かが最も重要になります。

ところで、これを読んでいる学生の皆さんは薬剤師国家試験についてどの程度知っていますか？学生時代はあ

っという間に過ぎていきますので、「まだまだ先のこと」と思っている、概略くらいは知っておきましょう。薬剤師国家試験は90問の必須問題と255問の一般問題（理論問題105問および実践問題155問）の合計345問が出題され、両問題とも「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の各科目から構成されます。その合格基準が第101回薬剤師国家試験から一部変更されました。「必須問題」については全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上（いわゆる足切り点で、以前は各科目50%以上）であることが求められます。また「一般問題」の足切り点（以前は各科目35%以上）の設定が廃止されました。総得点についてはこれまで65%以上とされていた基準が「平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定された得点以上であること」と変更されました。これらの変更は、受験生にとって有利な方向への変更と受け取ることができですが、国家試験合格のための戦略の変更も考えておかなければなりません。すなわち、足切り点の緩和・廃止により、これまでの苦手科目の克服に費やしてきた時間の一部を、得意科目で高得点を取るために回して、総得点でより高い点を目指す作戦を考慮したり、出題頻度に基づいた学習をより徹底して進めていく必要があったりするでしょう。また「薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針（医道審議会薬剤師分科会、薬剤師国家試験制度改善検討部会）」では同一科目内での連続問題や、複数科目を組み合わせた複合問題の出題が示されており、このような問題に対してもきちんと対処できる力を養っておく必要があります。

本年度こそ、低迷する国家試験の合格率改善を達成するため、全教員を挙げて皆さんを支援していきますが、あくまでも「勉強するのは国家試験を受験する学生の皆さんである」ことをしっかりと認識し、6年次生においては効率的な学習を今すぐに始めて下さい。そして一緒に楽しい春を迎えましょう。

第101回薬剤師国家試験結果

区分		受験者 人	合格者 人	合格率 %	私立全国平均 (%) 私立全国順位
6年制新卒	男	107	101	94.39	85.72 28位／56校
	女	183	159	86.89	
	計	290	260	89.66	
6年制既卒	男	98	20		67.76 14位／56校
	女		59		
	計	98	79	80.61	
総合		393	343	87.28	76.31 16位／56校

平成28年2月27、28日施行

就 任 の 挨 拶

基礎薬学教育研究センター 教授 尾崎 恵一



このたび長崎大学大学院医歯薬学総合研究科より本学の基礎薬学教育研究センターに着任いたしました尾崎恵一と申します。実は、16年ぶりの関西復帰です！

ホームタウンは吹田市ですが、大阪に住むのは30年ぶりくらいになります。長崎大学では大阪人として関西弁で活躍していたはずでしたが、こちらに来ると完全に薄まってしまい、九州人とさえ思われてしまい大変ショックでした。みなさんが面白く、濃すぎますよ!? さて、住み始めて1か月ほどは、久しぶりの大阪に対するカルチャーショックがありましたが、徐々に慣れてきました。いよいよ本格的に始動したいのですが、まだまだ新米教授の分際です!! しかし、微力ながらもこれから大阪薬科大学の学生の皆さんが世の中に羽ばたくためにお役に立ちたいと思っています。私は「がん・糖尿病の基礎研究、そして生物系薬学教育」をこれまで20年以上行ってきたので、自信をもって頑張ります。生物学の基礎をしっかりと学び、薬の作用をちゃんと理解できる薬剤師、薬学研究者を数多く輩出していけるよう今後とも努力していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。B棟4階にいますので、気軽にお越しください(^_^)

臨床薬学教育研究センター 教授 中村 任



平成28年4月1日付で臨床薬学教育研究センターに着任しました中村任と申します。私は、京都大学大学院薬学研究科博士課程修了後、神戸大学医学部附属病院にて薬剤師業務に従事し、この間に米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校薬学部に半年間留学しました。続いて、神戸大学大学院医学系研究科特務准教授として医学教育に従事し、平成21年からは姫路獨協大学薬学部教授として薬剤学研究室を担当した後、本学に赴任しました。

医療の進歩は目覚ましく、薬剤師国家試験でも重要となる医療系薬学分野の学習内容は年々増え、広範にわたっています。臨床薬学教育研究センターでは、医療系薬学の基礎から応用までを順序立てて理解できるような教育を実践したいと考えています。また、私はこれまで薬物動態学をベースに個別化医療に関連した研究を行ってきました。学生の皆さんが、将来、薬剤師・薬学人として薬学的介入によって医療に貢献できるような研究にも取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床薬学教育研究センター 教授 中村 敏明



この4月から臨床薬学教育研究センター教授に就任しました。3月までは、病院薬剤部に勤務しており、そこで薬剤師に対する社会的ニーズの変化を体験してきました。医療現場では、調剤主体の業務が見直され、多くの新しい業務が取り入れられるようになりました。また、同じ業務であっても例えば服薬状況の確認が服薬コンプライアンスから服薬アドヒアランスに変化しているように、常に患者中心の関わりに見直されています。患者を疾患治療の対象者ではなく、治療すべき疾患を抱えた生活者として捉え、生活の中で一緒に疾患克服を目指す時代になっています。当然、この流れは薬学教育においても、6年制教育、OBE教育、IPE教育、薬剤師として求められる基本的な10の資質などとして反映されています。それらに加え、私のこれまでの経験から、臨床薬学教育に“視点”、“調和”、“信頼”の3つのキーワードを掲げ、今後の医療をリードする薬剤師の育成に努めます。

臨床薬学教育研究センター 准教授 角山 香織



この度、臨床薬学教育研究センターに准教授として着任しました角山です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、金沢大学大学院を修了後、金沢大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院と勤務し、病棟薬剤師業務に加え、副薬剤部長や薬剤部リスクマネージャーとしての業務にも従事しました。その後異動した京都大学薬学部では、臨床での経験を活かし、事前学習や実務実習、多職種連携教育などに取り組むとともに、データベースを利用した医薬品の適正使用に関する研究を行って来ました。それぞれの地で患者さんやそのご家族をはじめ多くの方々との出会いがあり、その関わりの中でたくさんのことを学び吸収させていただきました。ここ大阪薬科大学での皆様との出会いを大切にしつつ、これまでの経験を活かして、微力ではありますが大阪薬科大学のさらなる発展に貢献できたらと考えております。皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床薬学教育研究センター 准教授 細畑 圭子



このたび平成28年4月1日付で、臨床薬学教育研究センターの設立に伴って准教授に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

近年、薬剤師を取り巻く環境は大きく変化し、薬剤師に期待される職能は非常に多様化しています。そのような変化に対応するために、当センターでは教育現場を多面的に把握するとともに、薬学教育に期待を寄せている患者、薬局などの医療施設、国や社会から求められる役割をどのように実現していくのかについて、情報を収集して検討しています。

大阪薬科大学は長い歴史と伝統をもち、多くの優れた卒業生が全国で活躍しています。平成28年4月からは、学校法人大阪医科大学と法人合併し、これまでの伝統に加えて、さらに魅力ある学校づくりに貢献していきたいと考えています。

臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ



本年4月に本学の臨床薬学教育研究センター講師として着任いたしました。前任地の九州大学病院薬剤部では、病院薬剤師として15年間勤務し、総合診療科、神経内科、整形外科、産婦人科、外科、血液内科等の病棟を担当させていただきました。多くの患者さんと出会い、「死」と向き合う患者さんから多くのことを学びました。患者さんは、「患者に薬の説明をするだけでなく、患者の心に寄り添ってくれる薬剤師」を求めています。

大学での学生生活は、患者が求める薬剤師、医師・看護師に必要とされる薬剤師、適切な情報提供が出来る企業人等になるための基盤を作る大切な時期となります。より多くのことを学び、社会にでてから活躍してくれることを期待しています。

臨床実践薬学研究室 助手 庄司 雅紀



平成28年4月1日付で、臨床実践薬学研究室（荒川行生教授、恩田光子准教授）の助手に着任致しました、庄司雅紀と申します。私は本学の薬学部6年制教育の第一期生であり、母校に勤務できることに對し、嬉しく思うとともに責任を感じております。

私の主な研究分野は臨床疫学であり、特に薬局・薬剤師の地域医療における機能をテーマとした研究を、臨床現場の薬剤師の先生方と協力しながら行っております。今後、微力ながら本学の教育・研究に貢献したいと考えております。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

学生課 塩谷 京子



1月1日付で学生課に着任いたしました、塩谷京子と申します。学校法人大阪医科大学として新たなスタートを切った今、この大学で働かせていただけることを大変嬉しく思っています。

学生のみなさんが充実した学生生活を送れるよう、微力ながらお力添えさせていただければと思います。“大阪薬科大学に入ってよかった”と思っていただけるよう、精一杯頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

入試課 渥美 百合子



平成28年4月1日より、入試課に配属となりました渥美百合子と申します。大阪薬科大学の皆様へ、この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。昨年度までは高等学校の理科教員として、生物・化学の指導をしておりました。校務分掌として入試広報部に所属しておりましたので、前職での経験を活かし業務に励みたいと考えております。本学の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

施設課 栗原 一生



今年度より大阪薬科大学事務職員として採用されました、栗原一生と申します。前職ではシステムエンジニアとして2年間働いていました（社会人3年目です）。

趣味は、映画鑑賞と読書です。最近は業務に活用できる資格の取得に向けて勉強中です。

本学の発展と学生が充実した生活を送る上でのより良い環境づくりに貢献できるよう、尽力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

金森 徹



この度、大学規定4-21の「特別専門職員」として採用いただきました。赴任後半年が経過しましたが、教職員の皆さんは性格が穏やかなために、学園全体の雰囲気は柔らかく、心から喜んでおります。

趣味の分野では1300年前の日本再生をライフワークで研究しています。詳細が書けないのが残念ですが、この時期日本は内外の戦争と大地震で疲弊の極に達しますが、奴婢と囚人を解放して生産高を高める策で再生します。この歴史が我々の勇気の原点になっていると思います。

総合科学系の紹介(自然学グループ)

准教授 永田 誠

総合科学系・自然学グループの紹介を致します。このグループは、吉岡（本年度担当科目：物理学1、物理学2、数学1、数学2）と永田（本年度担当科目：数学1、数学2、数理統計学、数理論理学）の二人で構成されています。

吉岡の専門分野は物理学です。物理学は自然を研究対象にした学問で、二つのアプローチがあります。一つは、実験・観測により自然を見ていく（理論を実証していく）方法、もう一つは（数学的に考えることで）自然の中にある理論を探す方法です。前者の例として、最近のヒッグス粒子や重力波の発見があります。吉岡は、後者の理論的な発展に興味をもち、紙とペンを武器に素粒子物理学を研究しています。素粒子とは、身の回りのものを小さくしていった最終形である最小単位の「ツブ」のことです。その小さな「ツブ」である素粒子の世界を、量子力学と相対性理論を手がかりに研究しています。「重力波」「ヒッグス粒子」や「ニュートリノ」は素粒子と繋がりの深いものです。生きている間に「万物の理論(Theory of Everything)」をこの目で見たいという夢をもって研究しています。

永田の専門分野は数学です。数学は数や図形（幾何）等を対象とした学問です。この学問は、数や図形等といった数学的对象に関する現象や構造を発見し、論理（演繹）という方法で確認（証明）する、それによって今まで分からなかったことを理解することを目的としています。数学イコール論理的、という印象があるようですが、大事なのはやはり「発見」であり、論理性は表現のルールに過ぎません。永田は数論周辺の話、特に最近では数にまつわる困難さに興味を持っています。例えば、大きな整数を短時間で因数分解するのは困難であると考えられていて、その困難さを社会に応用したものもあります（安全にネット取引するために利用されている暗号など）。数学の問題をクイズに例えると、クイズは解けてしまえば簡単に感じますが、解けないと「難しい!」と感じます。この難しさは解き方が分からないという意味の難しさです。一方、答えを聞いても理解するのに時間がかかるという意味の難しさというのがあります。あまりにも難しいと、どうしてそんなに難しいのか、簡単にできないのか、と考えたくなります。このような問題意識で、数にまつわる困難さを理解したいと考えています。

平成27年度学部卒業生の進路・就職状況

～あなたのキャリアデザインは？～

キャリアサポート部長 教授 福永 理己郎

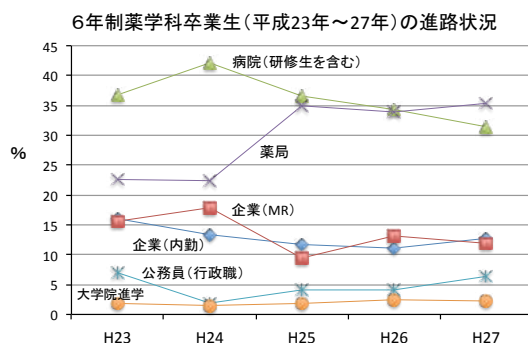
平成27年度 学部卒業生の進路・就職状況について報告します。本学の薬学科（6年制）卒業生の就職・進学率は91.8%でした。その内訳は、薬業関連企業の内勤職〔CRA・CRC、研究・開発、管理薬剤師などを含む〕12.7%、MR職11.9%、病院薬剤師（国公立含む）29.5%、病院研修生1.9%、薬局薬剤師35.4%、公務員（行政職）6.3%でした。また、大学院進学者は2.2%でした（平成28年5月1日現在）。

薬剤師国家試験を目指す薬学科が6年制になって以降の、過去5年の卒業生の進路・就職先の割合をグラフで示しました。最初の2年間（第1・2期生）は薬局薬剤師の割合が少し低く（約22.5%）、その分は病院薬剤師（40%前後）と企業（内勤とMR合わせて約31%）が多めでしたが、ここ2～3年は病院と薬局が共に34%前後、企業が23%前後、公務員（行政職）が5%前後で安定しているようです。大雑把に言って、本学卒業生の3分の1が病院薬剤師、3分の1は薬局薬剤師、残り3分の1が企業や公務員、あるいは大学院進学者ということになります。見方を変えると、卒業生の約4分の3（72～76%）が、薬剤師免許を必要とする職業（薬剤

師＋行政職）に就いていることになります。

さて、在学生の皆さん。あなた自身は、卒業後どのような進路を選びどのような人生を歩むのか、考えていますか？

キャリアサポート課では皆さんが自分の興味・能力・価値観・将来像に沿った進路・就職先を見つけられるように、学生一人ひとりに対して全力できめ細かくサポートします。就職に向けた具体的な活動は5・6年次になってから本格化しますが、1～4年次のうちから自分のキャリアプランについて考える機会を持ちましょう。気軽にキャリアサポート課を訪れて相談してください。



平成27年度 学校法人大阪薬科大学決算

学校法人大阪薬科大学の平成27年度決算については、平成28年5月28日（土）に開催されました学校法人大阪医科薬科大学理事会において承認されましたので、資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表・財産目録を掲載します。

平成27年度資金収支計算書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

（単位：円）

収 入 の 部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	3,646,700,000	3,686,200,000	△	39,500,000
手数料収入	99,600,000	105,918,985	△	6,318,985
寄付金収入	15,000,000	17,019,582	△	2,019,582
補助金収入	204,700,000	241,187,178	△	36,487,178
国庫補助金収入	198,600,000	241,081,000	△	42,481,000
地方公共団体補助金収入	100,000	106,178	△	6,178
学術研究振興資金収入	6,000,000	0		6,000,000
資産売却収入	1,500,000,000	1,746,924,568	△	246,924,568
付随事業・収益事業収入	629,300,000	795,291,321	△	165,991,321
受取利息・配当金収入	60,000,000	74,628,340	△	14,628,340
雑収入	45,400,000	180,772,217	△	135,372,217
借入金等収入	0	0		0
前受金収入	410,000,000	474,000,000	△	64,000,000
その他の収入	235,710,000	429,261,537	△	193,551,537
資金収入調整勘定	△ 553,100,000	△ 724,346,625		171,246,625
前年度繰越支払資金	3,924,809,633	3,924,809,633		
収入の部合計	10,218,119,633	10,951,666,736	△	733,547,103

支 出 の 部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	1,816,150,000	1,811,966,001		4,183,999
教育研究経費支出	1,151,977,000	958,205,800		193,771,200
管理経費支出	768,925,000	861,327,604	△	92,402,604
借入金等利息支出	0	0		0
借入金等返済支出	0	0		0
施設関係支出	157,800,000	81,831,302		75,968,698
設備関係支出	206,190,000	245,902,730	△	39,712,730
資産運用支出	2,900,000,000	2,795,125,937		104,874,063
その他の支出	282,000,000	559,896,623	△	277,896,623
〔予備費〕	20,000,000			20,000,000
資金支出調整勘定	△ 220,000,000	△ 334,929,110		114,929,110
翌年度繰越支払資金	3,135,077,633	3,972,339,849	△	837,262,216
支出の部合計	10,218,119,633	10,951,666,736	△	733,547,103

平成27年度事業活動収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,646,700,000	3,686,200,000	△ 39,500,000
		手数料	99,600,000	105,918,985	△ 6,318,985
		寄付金	15,000,000	19,523,089	△ 4,523,089
		経常費等補助金	184,700,000	241,187,178	△ 56,487,178
		国庫補助金	178,600,000	241,081,000	△ 62,481,000
		地方公共団体補助金	100,000	106,178	△ 6,178
		学術研究振興資金	6,000,000	0	6,000,000
		付随事業収入	629,300,000	795,291,321	△ 165,991,321
		雑収入	45,400,000	136,937,383	△ 91,537,383
		教育活動収入計	4,620,700,000	4,985,057,956	△ 364,357,956
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	1,791,376,000	1,798,805,144	△ 7,429,144
		教育研究経費	1,499,977,000	1,293,696,659	206,280,341
		管理経費	815,325,000	897,841,237	△ 82,516,237
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	4,106,678,000	3,990,343,040	116,334,960
	教育活動収支差額		514,022,000	994,714,916	△ 480,692,916
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	60,000,000	74,628,340	△ 14,628,340
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	60,000,000	74,628,340	△ 14,628,340
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		60,000,000	74,628,340	△ 14,628,340
	経常収支差額		574,022,000	1,069,343,256	△ 495,321,256
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	18,048,974	△ 18,048,974
		その他の特別収入	20,000,000	0	20,000,000
		特別収入計	20,000,000	18,048,974	1,951,026
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	2,500,000	14,484,976	△ 11,984,976
		薬局閉鎖処分差額	0	21,340,887	△ 21,340,887
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	2,500,000	35,825,863	△ 33,325,863
	特別収支差額		17,500,000	△ 17,776,889	35,276,889
	〔予備費〕		20,000,000		20,000,000
	基本金組入前当年度収支差額		571,522,000	1,051,566,367	△ 480,044,367
	基本金組入額合計		△ 305,400,000	△ 126,167,437	△ 179,232,563
	当年度収支差額		266,122,000	925,398,930	△ 659,276,930
	前年度繰越収支差額		2,034,510,000	2,305,220,801	△ 270,710,801
	基本金取崩額		0	74,561,696	△ 74,561,696
	翌年度繰越収支差額		2,300,632,000	3,305,181,427	△ 1,004,549,427

(参考)

事業活動収入計	4,700,700,000	5,077,735,270	△ 377,035,270
事業活動支出計	4,129,178,000	4,026,168,903	103,009,097

貸 借 対 照 表

平成28年3月31日

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	平成 27 年度末	平成 26 年度末	増 減
固定資産	24,139,745,267	22,169,517,447	1,970,227,820
有形固定資産	16,192,209,225	16,293,966,429	△ 101,757,204
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	5,083,022,780	5,222,214,609	△ 139,191,829
その他の有形固定資産	2,387,766,095	2,350,331,470	37,434,625
特定資産	3,471,055,123	3,152,600,586	318,454,537
その他の固定資産	4,476,480,919	2,722,950,432	1,753,530,487
流動資産	4,803,787,582	5,574,520,883	△ 770,733,301
現金預金	3,972,339,849	3,924,809,633	47,530,216
その他の流動資産	831,447,733	1,649,711,250	△ 818,263,517
資産の部合計	28,943,532,849	27,744,038,330	1,199,494,519

負 債 の 部			
科 目	平成 27 年度末	平成 26 年度末	増 減
固定負債	693,667,846	706,828,703	△ 13,160,857
退職給与引当金	693,667,846	706,828,703	△ 13,160,857
流動負債	858,117,501	697,028,492	161,089,009
未払金	308,791,790	167,103,534	141,688,256
その他の流動負債	549,325,711	529,924,958	19,400,753
負債の部合計	1,551,785,347	1,403,857,195	147,928,152

純 資 産 の 部			
科 目	平成 27 年度末	平成 26 年度末	増 減
基本金	24,086,566,075	24,034,960,334	51,605,741
第 1 号基本金	22,291,036,769	22,365,598,465	△ 74,561,696
第 3 号基本金	1,507,529,306	1,402,361,869	105,167,437
第 4 号基本金	288,000,000	267,000,000	21,000,000
繰越収支差額	3,305,181,427	2,305,220,801	999,960,626
翌年度繰越収支差額	3,305,181,427	2,305,220,801	999,960,626
純資産の部合計	27,391,747,502	26,340,181,135	1,051,566,367
負債及び純資産の部合計	28,943,532,849	27,744,038,330	1,199,494,519

財 産 目 録

平成28年3月31日

(単位：円)

I 資産総額	28,943,532,849
内 基本財産	16,221,676,644
運用財産	12,721,856,205
II 負債総額	1,551,785,347
III 正味財産	27,391,747,502

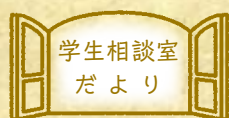
区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	16,221,676,644
土地	59,259.53㎡ 8,721,420,350
建物（付属設備を含む）	35,694.97㎡ 5,083,022,780
図書・視聴覚資料	93,298 冊 1,359,665,004
1,725 本	
構築物・機器備品	2,711 点 1,027,584,488
その他	29,984,022
2 運用財産	12,721,856,205
現金預金	3,972,339,849
その他	8,749,516,356
資産総額	28,943,532,849
負債額	
1 固定負債	693,667,846
退職給与引当金	693,667,846
2 流動負債	858,117,501
未払金	308,791,790
その他	549,325,711
負債総額	1,551,785,347
正味財産（資産総額－負債総額）	27,391,747,502

三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況(その10)

准教授(特任) 銭田 晃一

本機構の取り組みも7年が経過し、三大学の学生対象の双方向遠隔講義、子どもから大人まで一般対象の社会還元などの活動を続けています。昨年後期は大阪医科大学から「生命誌」、関西大学から「福祉工学概論」を受信、本学から「生薬学」「機能形態学1」を配信するとともに「機能形態学1」では平成27年12月12日(土)に関西大学の学部生ならびに大学院生を対象に本学にて「麻酔ラットの全身血圧に影響をおよぼす薬物の作用」について実習を行いました。社会還元では11月14日(土)本学にて「おいしさのカギ、“うま味”のもと

をテーマに通算10回目となる「高槻家族講座」を開催しました。また、11月15日(日)関西大学高槻ミューズキャンパスにて「自由研究コンテスト2015」第二次審査会を開催し、高槻市内の小・中学校12校、337作品の応募の中から34作品の発表と受賞式を行いました。さらに、平成28年1月30日(土)大阪医科大学にて「新たな超音波科学の創生～医工薬看連環における身体可視化への挑戦～」をテーマに「第11回三大学医工薬連環科学シンポジウム」を開催し、一般、研究者等87名に参加いただきました。



呼吸でここを整える

学生相談室 相談員 小田 佳子

試験が迫っているとき、やらないといけないことが山積みするとき、何か息苦しい感じになってきませんか。

私たちはストレスフルな状況におかれると、運動をしているわけでもないのに、ハアハアと息が上がってくる場合があります。呼吸は浅く速くなり、心拍数も上がってきます。これはストレスに対抗するために身体が頑張っているということです。しかし、ストレスがかかった状態が続くと、こころも身体も疲れてしまい、さらには調子を崩してしまうこともあります。そうなる前に、早めに対処することが大切です。

今回は、ストレス対処法の一つとして、呼吸法を紹介します。やり方は簡単です。座った状態でも立った状態でもかまいません。まずは身体を楽にします。姿勢を良くし、お腹に手を当てて、目を閉じます。頭の中で数をかぞえながら、ゆっくりと口から息を吐き出します。息を吐き出しきったら、同じようにして、今度は息を吸い込みます。最初は吐くのも吸うのも三秒ずつ。慣れてきたら吐く息を長くし、吸う息を短くします。息を吐くときにはお腹をへこませ、吸うときにはお腹を膨らませます(腹式呼吸)。これを5分から10分くらい繰り返します。

ふだん私たちは、無意識のうちに呼吸をしています。しかし、意識的に呼吸の仕方を変えることで、自律神経の状態を調整することができます。深くゆっくり息を吐くと、副交感神経が活発になり、心拍が抑えられ、血圧も下がり、身体もこころもリラックスした状態になるのです。

息苦しさを感じたら、試しに息の仕方を変えてみてください。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。

若林暁子相談員
(火曜日担当)小田佳子相談員
(木曜日担当)西田裕子相談員
(金曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00
毎週金曜日 14:00～18:00

TEL：(072)690-1077(直通)

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

[場所] A棟1階



総務課

■人事

退職（平成27年12月31日付）

事務職員

卯滝 明日菜

退職（平成28年3月15日付）

経理課課長補佐

中村 達也

退職（平成28年3月31日付）

教授

田中 麗子

教授

宗前 清貞

教授（特任）

新田 剛

教授（特任）

長谷川 健次

教授（特任）

恩田 誠二

施設課長（嘱託職員）

樽井 康員

附属薬局薬局長（嘱託職員）

小川 賀偉

附属薬局主任薬剤師（嘱託職員）

鈴木 靖規

附属薬局薬剤師（嘱託職員）

宇佐美 秀子

附属薬局薬剤師（嘱託職員）

中島 美佐子

附属薬局薬剤師（嘱託職員）

坪井 智子

附属薬局薬剤師（嘱託職員）

村上 貴恵

採用（平成28年1月1日付）

事務職員

塩谷 京子

内部監査業務特別専門職員

金森 徹

採用（平成28年2月1日付）

臨時教育補助教員

今野 秀樹

採用（平成28年4月1日付）

教授

尾崎 恵一

教授

中村 任

教授

中村 敏明

准教授

角山 香織

准教授

細畑 圭子

講師

内田 まやこ

助手（嘱託職員）

庄司 雅紀

臨時教育補助教員

竹林 裕美子

事務職員

渥美 百合子

事務職員

桑原 一生

再雇用（平成28年4月1日付）

教授（嘱託）

田中 麗子

教授（特任）

長谷川 健次

昇任（平成28年4月1日付）

教授

大桃 善朗

教授

井上 晴嗣

教授

岩永 一範

准教授

佐藤 卓史

助教

米山 弘樹

助教

東 剛志

施設課長

増家 博

教務課係長

前野 真徳

配置換え（平成28年4月1日付）

羽田 理恵

臨床薬学実務教育研究室助教から

臨床実践薬学教育研究室助教

古本 浩三

学生課長からキャリアサポート課長

錦野 晴俊

キャリアサポート課長から学生課長

藤原 昭男

施設課係長から総務課係長

野村 彰吾

教務課事務職員から経理課事務職員

出向（平成28年4月1日付）

助教

羽田 理恵

一般社団法人三島薬学教育センター

総務課係長

藤原 昭男

一般社団法人三島薬学教育センター

併任（平成28年1月18日付）

図書館長

大野 行弘（教授）

併任（平成28年4月1日付）

キャリアサポート部長

福永 理己郎（教授）

図書館長

大野 行弘（教授）

併任（平成28年4月1日付）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

大桃 善朗（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

尾崎 恵一（教授）

委嘱を解く（平成28年3月31日付）

安全衛生委員会委員 藤原 昭男
（建築物環境衛生管理技術者）

委嘱（平成28年4月1日付）

校医及び産業医 柚木 孝仁（非常勤）
学生相談室顧問 米田 博（非常勤）
学生相談室相談員 小田 佳子（非常勤）
学生相談室相談員 西田 裕子（非常勤）
学生相談室相談員 若林 暁子（非常勤）
研究委員長 大野 行弘（教授）
薬剤師国家試験対策委員長 岩永 一範（教授）
電子顕微鏡室管理責任者 幸田 祐佳（准教授）

招へい教授（平成28年4月1日付）

是恒 之宏
田嶋 政郎
田伏 克惇
内藤 嘉之
野口 正弘
橋田 亨
堀 正二

招へい教授（平成28年5月1日付）

中張 隆司

客員研究員（平成28年2月1日付）

吉田 祥

客員研究員（平成28年3月14日付）

五十君 静信

客員研究員（平成28年4月1日付）

藤田 芳一（名誉教授）
松島 哲久（名誉教授）
田伏 克惇
橋田 亨
森脇 将光
柳原 五吉

客員研究員（平成28年5月1日付）

中張 隆司

外国人客員研究員（平成28年6月1日付）

John Oluwasogo Ayorinde

■慶弔

訃報

中村 達也

経理課課長補佐（平成28年3月15日逝去）

■寄付

故・高岡昌徳教授のご遺族

本学教育研究活動への寄付金 150万円
（平成28年1月21日付）

子林孝司評議員

本学教育研究活動への寄付金 6万円
（平成28年4月5日付）

◆退職記念パーティーを開催しました

平成28年3月16日（水）17時30分より、大学会館食堂において、平成27年度末をもって退職された新田剛教授（特任）、恩田誠二教授（特任）、宗前清貞教授、樽井康良施設課長の退職記念パーティーを開催しました。

当日は、100余名の教職員が参加し、これまでの労をねぎらい、今後のご活躍とご健康を祈念しました。

◆受賞（教職員）

- 1) 国際精神医学会2015・第4回アジア神経精神薬理学会（AsCNP）合同大会において、清水佐紀助手が優秀発表賞（JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2015）を受賞しました。
- 2) 田中早織助手が8th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societiesにおいて「Young Scientist Award for oral presentation」を受賞しました。
- 3) 藤森功准教授がElsevier社より2015年度のBiochemistry and Biophysics Reports誌の「Outstanding Contribution in Reviewing」を授与されました。
- 4) 辻坊裕教授（三大学医工薬連環科学教育研究機構副

機構長）が平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞（理解増進部門）」を関西大学倉田准教授、河原教授、山本准教授、大阪医科大学寺崎教授と共同受賞しました。

5) 日本医薬品情報学会発行の学術誌「医薬品情報学」に掲載された恩田光子准教授の論文「薬剤師の在宅医療サービスによる残薬解消効果」が平成27年度之最優秀論文賞を受賞しました。

6) 森重雄太ポスト・ドクターがBMB2015（第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会大会 合同大会）において若手優秀発表賞を受賞しました。

◆文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業 平成27年度報告

平成24年度に採択された標記がんプロ事業も平成27年度で4年目を迎えました。

平成25年度からは、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程にがん専門薬剤師養成コースを開講し、2名の大学院生が入学しました。平成27年度にさらに1名の大学院生が入学し、研究を開始するとともにがん専門薬剤師を目指して臨床実習・演習を行っています。

平成27年度は、活動の一環として日本薬学会近畿支

部、神戸薬科大学との共催で以下のとおり3回の公開シンポジウムを開催しました。特に、第8回の公開シンポジウムは、従来の公開シンポジウムとは少し趣を変え、新入生を対象とし、がん医療に向かう薬剤師の姿や役割を理解してもらうことを目的としました。参加した学生からは、講師の先生方のお話に魅了されたとの声を多くもらいました。

第8回公開シンポジウム

新入学生に伝えたい、がん専門薬剤師とがん医療のこと

〔開催日〕平成27年6月5日（金）〔場 所〕大阪薬科大学 講堂 〔参加者〕254名

プログラム

「大阪薬科大学におけるがんプロ事業について」

天野 富美夫（大阪薬科大学学生体防御学研究室 教授／がんプロ担当者）

「がん薬物治療におけるがん専門薬剤師の役割」

橋田 亨 先生（地方独立行政法人 神戸市民病医院機構神戸市立医療センター 中央市民病院院長補佐・薬剤部長）

「がん専門薬剤師の役割と薬剤師に対する期待」

内布 敦子 先生（兵庫県立大学大学院看護学研究科 教授）

「がん患者から見たがん医療と薬剤師に対する期待」

天野 慎介 先生（一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長）

第9回公開シンポジウム

抗がん剤の副作用管理

〔開催日〕平成27年8月30日（日）〔場 所〕大阪薬科大学 D302 講義室 〔参加者〕29名

プログラム

「コンパニオン診断って何!？」

加藤 隆児（大阪薬科大学循環病態治療学研究室 講師）

「がん患者と漢方薬」

芝野 真喜雄（大阪薬科大学薬科学研究室 准教授）

「保険薬局における薬物の副作用管理について（そのⅢ）～用量規制毒性DLTについて～」

井尻 好雄（大阪薬科大学循環病態治療学研究室 准教授）

「がん治療と心毒性 Up to Date」

藤阪 保仁 先生（大阪医科大学附属病院臨床研究センター&がんセンター&呼吸器内科 准教授）

「総合討論」

第10回公開シンポジウム

がん患者の立場に立って考える ～在宅医療における薬剤師の役割～

〔開催日〕平成28年2月14日（日）〔場 所〕大阪薬科大学 D302 講義室 〔参加者〕82名

プログラム

「がん患者と向き合うために」

宮本 直治 先生（財団法人 田附興風会医学研究所北野病院 薬剤部）

「がん患者の立場から、薬剤師教育を考える」

沼田 千賀子 先生（神戸薬科大学薬学臨床教育センター 教授）

「在宅医療におけるがん看護の役割と薬剤師との連携」

鈴木 久美 先生（大阪医科大学看護学部 教授）

「がん患者と向き合うために、薬局薬剤師の方が、どのように在宅医療のチームの中に入って行くか!!」

土井 正樹 先生（在宅療養支援診療所土井医院 院長）

「総合討論」

がんプロ事業の最終年となる平成28年度は、より充実した活動を展開すべく、3回の公開シンポジウムの開催に加え、5年間のがんプロ事業の集大成として活動報告書の刊行も計画しています。

我々の活動が、がん医療の推進に少しでも寄与できるよう、邁進していく所存ですので、今後とも皆様方のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

◆平成27年度学位記授与式を挙行了しました



平成28年3月12日（土）10時30分より、本学体育館において、平成27年度大阪薬科大学学位記授与式を執り行い、学部卒業生なら

びに大学院修了生が新たな一步を踏み出しました。

◆平成28年度入学式を挙行了しました



平成28年4月2日（土）10時30分より、本学体育館において、平成28年度大阪薬科大学入学式を執り行い、学部新入生ならびに大学

院新入生が入学しました。父母、来賓、本学関係者等の多くの人々が新しい門出を祝福しました。

◆学術交流協定 国立循環器病研究センターと包括協定を締結



平成28年2月17日（水）、国立研究開発法人国立循環器病研究センターと大阪薬科大学は、教育・研究・医療に関わる交流等を促進するために包括協定を締結し

ました。国立循環器病研究センターがこのような包括協定を薬科大学と締結するのは初めてです。

今回、両機関が教育・研究・医療に関わる交流等を促進する包括提携を結ぶことにより、臨床薬学教育の推進、研究者間の交流や共同研究、大学院生・学生に対する多

様な教育機会の提供、国立循環器病研究センターが有する豊富な臨床経験・技術での協力、知財管理や産学官連携に関する情報交換などの可能性が広がり、その中から具体的な協力連携事業を一つでも多く産み出すことが期待されます。

今後の取組みとして両機関は、速やかに実務代表者からなる「国立循環器病研究センター・大阪薬科大学連携推進協議会」を設置し、定期的に、協力連携について具体策の検討や進捗状況の確認等を行い、本協定を実効あるものにするためにフォローアップをすることにしています。

◆第4回大阪薬科大学学術講演会 in 東京を開催しました

大阪薬科大学と大阪薬科大学同窓会の共催により、「第4回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」を開催し、東京近郊で活躍されている本学同窓生や本学関係者に多数ご参加いただき、大変活発で有意義な講演会となりました。また、講演後には、演者、座長、参加者を交えた懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、無事終了することができました。

開催日：平成28年2月21日（日）14:00～17:00

場 所：第一ホテル東京

主 催：大阪薬科大学、大阪薬科大学同窓会

後 援：公益社団法人日本薬剤師会

内 容：特別講演（14:30～15:30）



「最近の添付文書に記載される薬物動態支配因子に関する情報とその活用」

大阪薬科大学薬剤学研究室 教授 永井 純也 氏

招待講演（15:30～16:30）

「医療の質を測り改善する—聖路加国際病院の試みと国内外の状況—」

聖路加国際病院 院長 福井 次矢 氏

◆研究助成採択一覧

研究助成機関	採択者	採択テーマ
公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団 平成27年度助成事業（研究者育成）	藤森美季（大学院学生） （製剤設計学研究室）	機能性粉体調製による難水溶性化合物の溶解性改善
日本私立学校振興・共済事業団 平成28年度学術研究振興資金 （若手研究者奨励金）	森重雄太ポスト・ドクター （生体防御学研究室）	サルモネラのVBNC状態に関わる分子機構の解明
公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団	門田和紀講師 （製剤設計学研究室）	にがりの主成分イオンがゼリー剤のテクスチャーおよび苦味に与える影響
公益財団法人前田記念工学振興財団 平成28年度研究助成	東剛志助教 （薬品分析化学研究室）	医療機関の排水を対象にした新規水処理技術の開発に関する研究

◆本学の社会貢献活動 — 市民講座委員会からの実施報告及び今後の開催案内 —

実施報告

第41回「市民講座」を、以下の通り開催しました。

1. 開催日 平成28年5月21日（土）13:00～16:10

2. テーマ 少子高齢化への対応策を考える

3. 演題・講師

(1) 超高齢社会をどう支えるか — アジア諸国の試行錯誤

京都大学大学院文学研究科 アジア研究教育ユニット特定准教授 安里 和晃 先生（写真左）

(2) 少子高齢化社会における漢方医学の意義 — 安産・安胎そして高齢者の痛みなどへの治療成果を中心に

医療法人聖光園 細野診療所理事長 中田 敬吾 先生（写真中央）

4. 会場 大阪薬科大学 C105 講義室



開催案内

大学コンソーシアム大阪主催の「大阪中学生サマー・セミナー」を、以下の通り開催します。

1. 開催日 平成28年8月5日（金）9:00～12:30

2. 講座名 薬剤師の仕事を体験してみよう

3. 講師

大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構 准教授（特任） 銭田 晃一

大阪薬科大学 臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生

大阪薬科大学 製剤設計学研究室 教授 戸塚 裕一

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 岩永 一範

大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 金 美恵子

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ

4. 会場 大阪薬科大学 D棟2階模擬調剤室など

開催案内

高槻市社会貢献事業として、「夏休み子ども大学」を、以下の通り開催します。

1. 開催日 平成28年8月6日（土）9:00～12:00

2. 講座名 薬剤師さんに変身！—こども薬剤師体験—

3. 講師

大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構 准教授（特任） 銭田 晃一

大阪薬科大学 臨床実践薬学研究室 教授 荒川 行生

大阪薬科大学 製剤設計学研究室 教授 戸塚 裕一

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 岩永 一範

大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室 教授（特任） 金 美恵子

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田 まよこ

4. 会場 大阪薬科大学 D棟2階模擬調剤室など

教 務 課

◆平成27年度学位授与

[博士]

博士（薬科学） 博薬科第28号 越智 洋輔

細胞内環境で活性化されるプロドラッグ型 siRNA の開発

[修士]

修士（薬科学）

男子4名 女子0名 合計4名

[学士]

学士（薬学）

薬学科 男子109名 女子183名 合計292名

入 試 課

◆オープンキャンパス2016

2016年 春のオープンキャンパスは、3月26日（土）に開催され、春めいたうらかな天候に恵まれ、前年度より75組も多い、220組305名の参加者がありました。今回は、秋開催のプログラムとほぼ同様の内容で実施しました。ホームページの案内を約2ヵ月早めたことや、資料請求者のデータを用いて、近畿圏の高校2年生にダ

イレクトメールで案内したことが、参加者増加の一因になっていると考えます。

今後は、メインである夏のオープンキャンパスに向けて、積極的に広報活動を行い本学のPRをしていきたいと考えています。

●入試概要および進路・就職講座



D棟講堂にてキャリアサポート課長の進路・就職状況に関する講演後、入試概要について入試委員長より説明がありました。

●個別相談



3名の入試委員が相談員を担当し、また、在学生による相談コーナーも3ブース設置しました。受験生や保護者からたくさんの相談がありました。

●キャンパスツアー



D棟2階にある模擬調剤室やコンピューター演習室、図書館などを本学学生が、受験生や保護者を案内するオープンキャンパスの人気イベントです。学生の話に熱心に聴いている受験生や保護者の姿が印象的でした。



オープンキャンパス2016

開催日：2016年7月30日（土）、31日（日）、
8月21日（日）、10月1日（土）

主なプログラム：キャンパスツアー、入試説明、個別相談、
ランチ体験 など

予 約：不要

送 迎：JR摂津富田駅と本学間に無料の直行バスを運行します。

その他：日程によって、プログラム内容が異なります。

詳細は本学のホームページで確認してください。

（7月上旬頃掲載予定）

臨床教育・研究支援課

◆平成27年度実務実習伝達・報告会、平成28年度白衣授与式

平成28年3月30日（水）午前10時より、本学講堂にて病院・薬局実務実習に赴く5年次生を対象に「白衣授与式」を開催しました。大学から授与された白衣を身につけ、学長、実務実習等専門委員会委員長および実務実習実施部会責任者の式辞に耳を傾けていました。

続いて、午後1時より、本学体育館にて平成27年度に実務実習を行った6年次生が、実習先で学んだ知識を5年次生に伝達する「実務実習伝達・報告会」を開催しました。今年度は、体育館で開催し、6年次生全員が発表を行いました。発表では、実務実習で培った知識だけではなく、心構えや実務実習前後の思いの変化などを熱心に5年次生に伝えていました。

また、当日は遠方から多数の指導薬剤師の先生方にもご出席いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



白衣授与式



実務実習伝達・報告会



実務実習伝達・報告会

◆平成28年度大阪薬科大学公開教育講座

第72回 平成28年5月28日（土）梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L・R

〔主題〕くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために（34）～ ※開催済み

〔開催時間〕14:10～15:40 〔講師〕大阪医科大学 乳腺・内分泌外科 科長 岩本充彦先生

〔演題〕乳癌に対する薬物療法の現況

〔開催時間〕15:55～17:25 〔講師〕立命館大学 生命科学部生命医科学科 教授 下妻晃二郎先生

〔演題〕QOL 評価の基礎と応用

第73回 平成28年7月16日（土）梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L・R

〔主題〕くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために（35）～

〔開催時間〕14:10～15:40 〔講師〕大阪薬科大学 薬剤学研究室 教授 永井純也先生

〔演題〕添付文書における相互作用情報の現状と課題

〔開催時間〕15:55～17:25 〔講師〕大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村敏明先生

〔演題〕RMP の実践における臨床薬剤師の役割

第74回 平成28年11月19日（土）梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L・R

〔主題〕くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために（36）～

〔開催時間〕14:10～15:40 〔講師〕大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田まよこ先生

〔演題〕未定

〔開催時間〕15:55～17:25 〔講師〕九州大学病院 血液腫瘍内科 助教 加藤光次先生

〔演題〕未定

◆平成28年度科学研究費補助金採択状況

(課題番号順)

(単位：千円)

	職名	研究代表者名	研究種目	研究課題名	直接経費	間接経費
新規	准教授	藤森 功	基盤研究 (C)	エイコサノイドによる肥満制御機構の解明とその制御機構に基づく新規治療法の探索	1,600	480
	准教授	和田 俊一	基盤研究 (C)	時空間制御機能を兼ね備えた Aib 含有ヘリックスペプチドの核酸医薬への応用	1,800	540
	助教	東 剛志	若手研究 (B)	病院排水中に残留する医薬品成分を対象にした新規水処理技術の開発と有効性評価	1,400	420
	講師	門田 和紀	若手研究 (B)	呼吸器疾患の個別化医療を実現可能にする吸入粉末剤のカスタムメイドデザイン	1,700	510
	助手	清水 佐紀	若手研究 (B)	本態性振戦の病態メカニズム解析と新たな治療薬ターゲットの解明	1,700	510
継続	教授	浦田 秀仁	基盤研究 (C)	金属錯体型塩基対の形成を構造基盤とする DNA 複製反応の制御	800	240
	教授	福永 理己郎	基盤研究 (C)	mTOR・Mnk プロテインキナーゼ系による翻訳調節を介した細胞増殖制御機構の解明	1,000	300
	教授	天野 富美夫	基盤研究 (C)	サルモネラの VBNC 状態への移行と増殖可能状態への復帰及び病原性発現機構の解析	900	270
	教授	尾崎 恵一	基盤研究 (C)	がん細胞の HDAC 阻害剤感受性を規定する分子機構の解明	1,100	330
	准教授	宮崎 誠	基盤研究 (C)	交替勤務従事者のための糖尿病薬物治療の開発：光で変動し続ける治療効果のモデリング	1,200	360
	准教授	大喜多 守	基盤研究 (C)	エンドセリンとエストロゲンによる虚血性臓器障害の制御と性差	1,200	360
	准教授	恩田 光子	基盤研究 (C)	健康行動理論に基づく風邪症状患者面談アルゴリズムの作成と有効性の検証	1,500	450
	助手	浅野 麻実子	若手研究 (B)	高度制御マイクロ波の非熱照射による難治性癌治療システムのための基礎的研究	500	150
	助手	林 淳祐	若手研究 (B)	RNA 干渉の作用長期化を目指した新規プロドラッグ型 siRNA の開発	1,300	390
	准教授	角山 香織	基盤研究 (C)	医薬品安全性情報創出を目指し有害事象自発報告データの持つ弱点への対応策を確立する	500	150
	准教授	スミス 朋子	基盤研究 (C)	薬学系大学生のための専門語彙教材開発と効果の検証	400	120
	教授	井上 晴嗣	基盤研究 (C)	シトクロム c-LRG 複合体の構造とその生理機能の解明	900	270
	教授	大野 行弘	基盤研究 (C)	シナプス分泌機構に着目したてんかん病態解析	1,100	330
	准教授	山田 剛司	基盤研究 (C)	海洋生物由来菌類の産生する抗がん剤のシーズの探索及びリード化合物の開発	800	240
	教授	春沢 信哉	基盤研究 (C)	新規 H3 アンタゴニストを用いる抗乳癌剤へのアプローチ	900	270
	教授	永井 純也	基盤研究 (C)	脂肪酸結合アルブミンによる HIF-1 活性化の分子機構とその制御による腎保護効果	1,200	360
	教授	中村 任	基盤研究 (C)	プラチナ系抗癌剤の副作用発現予測と発現機序解明に向けたバイオメタル情報の活用	1,200	360
	准教授	細畑 圭子	基盤研究 (C)	腎尿細管のメガリンを誘導する薬物の安全性に関する研究 ―カドミウムを用いた検討―	900	270
23 件					25,600	7,680

平成27年度研究助成(論文助成)金

平成27年度研究助成(論文助成)金は
 交付件数38件、交付総額6,142,785円でした。
 (研究委員会)

学 生 課

◆平成27年度学生表彰を行いました

平成28年3月12日(土)、学位記授与式後に平成27年度学生表彰を行いました。大阪薬科大学学生表彰規程に基づき、学術研究活動、課外活動等において功績があった学生や学生団体に対し、春沢信哉学生部長から、各表彰者の業績及び選考の経緯等が説明され、政田幹夫学長から表彰状の授与並びに記念品が手渡されました。



規程第2条第1号（学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げた学生又は学生団体）

学年（当時）	氏名	所属・団体	業績
博士課程 3年次生	徳留 健太郎 (写真中央)	薬品作用解析学研究室	第4回アジア神経精神薬理学会合同大会優秀発表賞
5年次生	松山 千容 (写真左)	生体防御学研究室	第65回日本薬学会近畿支部大会優秀ポスター賞

規程第2条第2号（課外活動において特に優秀な成績を修めた学生又は学生団体）該当者

学年（当時）	氏名	所属・団体	業績
2年次生	安藤 大河 (写真右)	サッカー部	2015年度関西医療系サッカーリーグ1部優秀選手

◆五月祭(新入生歓迎会)が開催されました

恒例の五月祭(学友会主催)が平成28年5月13日(金)に体育館で開催されました。

第1部では、軽音楽部、フォークソング部、コーラス部、アンサンブルサークルによる演奏・発表や、ダンス部によるステージ、アドバイザー単位でのクイズ大会などがあり、第2部では全学年でのビンゴ大会が行われました。今年は、旅行券や一眼レフカメラなど、豪華な景品が用意され、大いに盛り上がりしました。

学生間はもとより、教職員との交流を深める良い機会となりました。



◆国際交流基金助成事業について

本学では、創立百周年を記念して設けられた国際交流基金が整備されています。学術交流協定大学からの留学生受入や、外国人研究者等の招へいだけでなく、学部学生及び大学院学生の国際学会での発表、学部学生の語学留学や海外研修などの費用を対象に助成を行っております。

昨年度の実績としては、国際学会の発表や短期語学留学、海外研修や海外学術交流協定大学への交換留学など、延べ27件の助成を行いました（学生からの申請分）。

本年度前期分の短期語学留学・海外研修等への助成については、4月12日～8月末日までの期間、申請の受付を行っています。国際交流に関する窓口は学生課です。制度の概要や過去に助成を受けた学生の報告書を本学ホームページに掲載していますので、申請を考えている方はご覧ください。助成を受けるためには事前に所定の申請様式（ダウンロード可）により学生課に申請してください。国際交流委員会での審査を経て、採択されれば助成金が支給されます。

HOME > 教育・研究 > 国際交流

<http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/kokusaikoryu/index.html>

①海外研修旅行・海外語学留学	対象経費総額に5割を乗じた額から10万円を限度に助成
②国際学会発表	対象経費総額に8割を乗じた額から15万円を限度に助成

◆新入生交流・導入教育について

新入生の大学への定着を図ることを目的として、毎年6月下旬までの期間にアドバイザー単位で「新入生交流・導入教育」を実施しています。アドバイザー単位での実施となり、企画は各アドバイザーに任せられています。今年も様々なプランが立てられ実行されました。一番多かった企画は「会食」で、その他に「美術館見学」「京都観光」「ボウリング」「水族館」「動物園」「野球観戦」など、楽しく食事をしたり、施設を見学したりしながら、

これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受け、新入生同士の交流が図られました。

参加した学生からは、「同じアドバイザーの友人ができて良かった」「アドバイザーの先生と仲良くなれた」「友達ができるか不安だったが、企画を通して友人ができた」「先生と一緒になので最初は緊張したが、徐々に打ち解けることができて良かった」などの声が寄せられました。

◆平成28年度学友会執行委員会

執行委員長	山本 美樹
副執行委員長	伊集院昌以
総務局長	松本千夏子
厚生局長	山川恵里佳
広報渉外局長	細倉 宏之
体育局長	土川 萌
文化局長	西山 晃
会計部長	田口 真希

◆平成28年度大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	土屋 侑未
大薬祭副実行委員長	志熊 真理
総務部長	松本千夏子
イベント部長	中川 愛海
リサイクル部長	佐々木咲輝
装飾部長	別所 蓉子
渉外部長	福島雄太郎
渉内部長	谷本 聖衣

◆大薬祭「Reborn!!」が開催されます

本年度の大薬祭は、「Reborn!!」をテーマに、平成28年10月28日（金）～10月30日（日）の日程で開催されます。昨年は「STRAIGHTENER LIVE」「ダンスバトル」「フリーマーケット」「薔薇祭」など大いに盛り上がりました。今年もすでに大薬祭実行委員が準備を始めています。楽しい企画にご期待ください。



土屋侑未 大薬祭実行委員長からのメッセージです。

今年度の大薬祭は、節目の第50回を終えて第51回を迎えます。そのことを踏まえ、これから心機一転生まれ変わって、これまでになかった新しい大薬祭を作り上げていこうという意味を込めて、メインテーマを「Reborn!!」に決定致しました。Rebornという言葉には「生まれ変わる」という意味があり、節目を終えた大薬祭がこれまで以上に発展していくことを願っています。また、今年度から、設置法人が大阪薬科大学から大阪医科薬科大学になったということで、Rebornというテーマがまさに相応しいと思われます。

これまでの大薬祭で築き上げてきたものを活かし、責任をもって第51回大薬祭実行委員会らしい学園祭を作っていきたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※昨年度の大薬祭から



キャリアサポート課

◆学内合同セミナー

4月4日(月)に「学内合同セミナー(企業)」、4月5日(火)に「学内合同セミナー(薬局・病院)」を開催しました。本年度は企業41社、薬局58社・病院21団体にご協力いただきました。本学で採用担当者から直接、話を聞き、質問をすることができることから両日合わせて約580名の学生が参加し、大盛況の内に終わりました。就職活動が始まった6年次生はもちろん、5年次生の参加も多数あり、就職活動に対する関心の強さがうかがわれました。

学内合同セミナーには学年を問わず参加することができます。次回も3月以降に開催する予定ですので、低学年の学生もこのような機会を積極的に利用し、将来、社会に出てどのように活躍したいのかなど、自分のキャリア形成について考えるきっかけにされることを期待します。



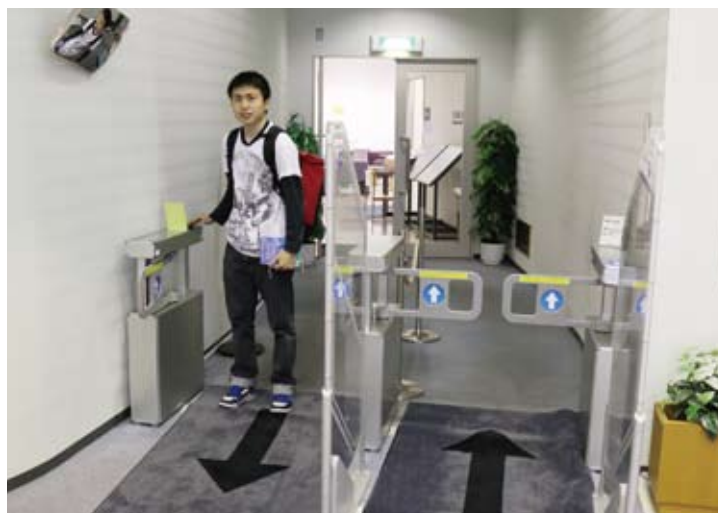
図書・情報課

◆図書館入退館ゲートの更新について

平成28年3月に図書館入退館ゲートの老朽化に伴うゲート更新工事を実施しました。

更新された入退館ゲートは、コンパクトな設計でゲートの開閉が以前より速くなりました。磁気式無断持ち出し検知システムは、クリスタル感覚のクリアなデザインで、来館者に威圧感を与えず不正持ち出しを未然に防ぐことができるようになっています。

更新されたシステムでは入館ゲートで入館記録のない学生は、退館ゲートを通過することができません。必ず各自がICカード(学生証)を各ゲートにかざした上で入退館するよう注意してください。



(写真) 左側入館ゲート、右側退館ゲート

薬 用 植 物 の 紹 介

ムラサキ (ムラサキ科)

Lithospermum erythrorhizo Sieb. et Zucc.

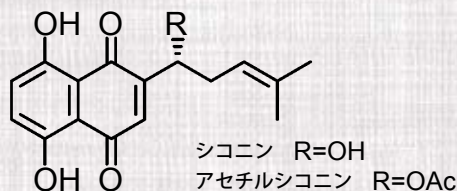
薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介



ムラサキは、朝鮮半島、中国、日本に分布している高さ、1 mくらいになる多年草である。初夏から早秋にかけて5 mmほどの小さな純白の花をつける。派手さのない日本人好みの花で古くは万葉集でも詠まれている。根は生薬のシコンとして用いられるほか、染色材料としても使われ、この植物から染めた紫色は古代から現代まで高貴な色として珍重されている。国内では、過去には北海道から九州まで分布していたが、現在では絶滅危惧種に指定されるほど数を減らしている。栽培が難しく貴重な植物であるが、わが園では毎年きれいな花をつけてくれる。

含有成分の主なものは、紫色色素であるナフトキノンのアセチルシコニン（主成分）、シコニン、イソプチリルシコニン、β-ヒドロキシイソバレリルシコニン、フリルハイドロキノ誘導体のシコノフラン A-E、



ピロリジジンアルカロイドのインテルメディンなどである。アセチルシコニンおよびシコニンは、局所的軟膏塗布で急性浮腫の抑制および肉芽増殖を促進させる。漢方処方では火傷などの皮膚疾患に外用剤として用いる紫雲膏が有名である。紫雲膏は、江戸時代の名医である華岡青洲によって明時代の外科正宗に収載された潤肌膏を改良したものである。

参考

「第十六改正日本薬局方解説書」(廣川書店)
「ムラサキの観察と栽培」(ニュー・サイエンス社)
「第1回 ムラサキに関するシンポジウム 講演要旨集」



ムラサキの根



シコン

編集
後記今後の大学広報の
あり方広報委員長 教授
辻坊 裕

学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学は、平成28年4月1日に法人合併し、新たに学校法人大阪医科薬科大学としてスタートを切りました。それに伴いまして、法人広報室が設置され、現在4名体制(2名の専任職員と2名の兼任職員)で運営

されています。一方、本学にも広報室が設置され、教育・研究活動およびその他の活動に係わる情報を学内外に発信するとともに、広報業務全般の統括を行っております。

今回、これまでの大阪薬科大学報を一新し、教職員および学生にとって親しみやすく、読み応えのある内容になるように構成しました。これにより教職員と学生との情報の共有に少しでもお役に立てれば幸いです。今後は法人広報室と密に連携しながら、また、皆様方のご意見、ご要望を取り入れながら魅力ある学報に改善したいと考えています。今後とも皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。